

— 北緯 39 度東経 141 度の地点から —

メトロポール

花巻高村光太郎記念館通信 第3号 平成 29年3月7日(火)

光太郎散歩道 冬の楽しみ方

カラムツのエビフライ

小さな動物たちの足跡



雪景色の高村光太郎記念館周辺、山荘周りの三畝の畑も、池も、詩碑も雪で埋もれています。

風が和らいだ2月3日、職員研修として雪の中を自然観察、散策しました。



ヤマユリ：中に無数の種子を蓄え風に乗って子孫を増やします。



スノーシュー着用者を先頭に歩きます。

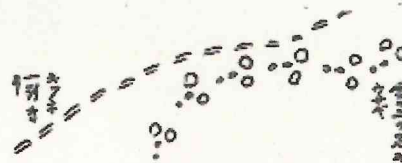


花巻市環境マスター望月達也氏の案内で観察
リスが巣をつくるために、杉の木
の皮を剥いだ様子。

リスが食べたカラムツの実（松ぼっくり）はまるてエビフライ。



上を見上げると、枝から枝に走るリスがいました。キツネの足跡は一直線
タヌキの歩いた後はパタパタ
野うさぎの足跡は、開いた後足が前に出ている。
キツツキは幹に穴をあけて、しばらくほうっておき、ポロポロと崩れやすくしてから、巣を作ります。
赤い枝はみづき、木肌が黒く柑橘系の香りを放っているのは、高級料亭の楊枝や箸の材料となるオオバクロモジです。



上は
光太郎先生自筆のイラストです。

雪白く積みり
雪白く積みり。
雪林間の路をうづめて平らかなり。
ふめは膝を没して更にふかく
(略)
十歩にして息をやすめ
二十歩にして雪中に坐す。
(略)
(昭和二十一年三月)

光太郎先生が愛用した 暖かくて美しい妻籠づくり

光太郎が「暖かくて美しい。」と愛用した「妻籠(つまご)」。
冬の山口での生活には、必需品です。

作ってみたい、講座を開催できればということで、1月30日(月)地元太田の高橋二歳さんを講師に、山口・上太田振興会館をお借りて、まずは藁草履作り挑戦しました。



出来上がった藁草履

藁を剥して、下準備をし、両手両足を駆使しての作業です。力加減も気にしながら、3時間かけてやっと片足分ができました。

出来上がった草履は、それぞれの形ですが、自分で作ったものはとても愛らしく感じます。履いているうちに足にも馴染んでくることでしょう。



両手両足を駆使しての繊細な作業です。



智恵子の丘

光太郎先生が智恵子の故郷安達太良山の方角に向かってその名を叫んだという智恵子展望台。今年度花巻市の整備事業により、新しく生まれ変わります。きれいになったデッキで、あなたも愛する人の名を呼んでみませんか。

森のギャラリー

これまで閉館中の旧「高村記念館」を、森のギャラリーとしてデッキを休憩コーナーに活用、自由に使っていただけます。内部は、各種イベントや体験講習にもご利用いただけるよう整備していきます。

雪深い花巻市太田山口です。冬には冬の楽しみもたくさんあります。「雪を見たい。」「雪の上に寝ころんでみたい。」と、この時期を選んで来てくださるお客様もいらっしゃいます。時には地吹雪で閉ざされるようなこともあります。光太郎が一人で(智恵子さんと二人の気持ちで)何度も冬を乗り越えたことを思うと、冬の山口も体験したい季節です。

【 編集後記 】

今号は、冬の職員の取り組みの話題になりました。平成29年度を迎えるにあたって、様々な取り組みでお客様をお迎えしたいと企画しています。その都度、ご案内しますので、是非足を運んでいただき、四季折々の山口を堪能していただきたいと思ひます。

発行 花巻高村光太郎記念会

025-0037 花巻市太田 3-85-1

TEL&FAX 0198-28-3012